

# 『内視鏡外科手術における保守管理と中材業務　そしてその先へ』

倉敷成人病センター　臨床工学科

山下　由美子

倉敷成人病センター臨床工学技士（以下、CE）は、手術室をはじめさまざまなセクションにて診療支援を行っている。2005年より手術室への業務参画を行い、内視鏡外科手術にも積極的に関与している。

この十数年で内視鏡外科手術の手技や医療機器は、急激な進歩により複雑かつ精密になり取り扱いや保守管理が複雑になった。また、それに伴い機器の保守管理方法やCEの役割も変わってきている。

現在、当院では内視鏡外科手術の管理方法を検討した結果、滅菌部門へCE1名を常駐し中材の運営を行っている。CEの常駐によって、滅菌前点検での不具合発見とそれに伴う術中トラブルの軽減、限られた機器で効率的な手術室が行えている。そして、内視鏡外科手術で使用する大型の医療機器だけでなく光学器械や鉗子などにおいても購入から修理・更新までの一元管理ができることは、CEの滅菌部門常駐のメリットであると考えられる。

更に、2015年より新しく手術室業務として開始したCEによる内視鏡外科手術における清潔補助業務においても使用する機器の保守管理の知識が活かせると考え、現在行っている。2005年から現在までの内視鏡外科手術における業務範囲の拡大とそれに伴う知識の蓄積、そして段階的な教育プロセスなど、当院の取り組みについて紹介する。